

## 「教師の使命と生涯学習」

渡邊 真理子

(化学生命工学科 4 年)

この教育実習で、沢山の人の支えに気づくことができ、常に感謝の気持ちを忘れず私自身も誰かを支える存在でありたいと感じた。お世話になった実習校は、小中一貫教育推進モデル校として様々な取り組みを行う学校だった。初日から、私がお世話になる 7 年 1 組担任、理科の指導教員の先生が体調不良で 1 か月欠席することになってしまい、沢山の先生方が教務の負担が増える中手厚くご指導してくださった。一人の先生に頼れる環境ではなかったので、積極的に関わり一人で抱え込まず相談する勇気や姿勢が身についた。

7 年 1 組の生徒は何事にも一生懸命で暖かく、担任がいない中でも一つの目標に向かって声を掛け合い、私はその姿に元気をもらっていた。授業実習は、研究授業を含め道徳 1 授業、理科合計 4 単元 12 授業を行い、理科の単元は「動物の分類」を担当した。具体的なイメージをつかむことができるよう Web から画像や動画を多く掲示し工夫したが、教師からの一方通行な授業になってしまい生徒自身が課題を見つけ解決する授業ができず、締めくくり方も中途半端で腑に落ちないまま終わってしまった。反省会で教科を指導してくださった先生に「ワークシートの振り返り欄に生徒が何を書いていたら正解やったん？」と聞かれ答えられなかった。授業を終えて生徒がどのようになって欲しいかを、実際に自分でワークシートへ記入する等明確化することで、何に焦点を当てて授業を構成したら良いのか分かるとご指導頂いた。また、Web の画像や動画でも生徒の興味は引けるが、自分自身の経験から話をした方が印象に残るとアドバイスも頂き、週末に散歩をして出会った動物を撮影したり、アサリやエビの解剖動画を作成したりと自分自身で行動する努力をしてみた。Web の画像や動画に比べて画質が悪い資料だったが、以前よりも生徒全員が興味を持って注目し反響も大きかった。実際の現場でも、他校の教員同士で放課後理科教室を開講しお互いの経験を共有して生徒を引き付ける実験や教材研究をされていると知った。

さらに、小学部の体育の先生が行う研究授業と事後研修に参加することができ、常に高みを目指しお互いに感化されながら切磋琢磨される先生方の姿を目の前で見た。教師になってからも学び続け経験を積む大切さを肌で感じ、生徒にも学ぶことの楽しさや面白さを伝えられる教師になりたいと強く思った。私は、教師が同じ授業を何回もしているという考えが無く、想像していたよりも授業準備が少なく済むと感じていたが、先生方は繰り返し同じことをするのではなく常に教材研究をし続け、時代と共に変化し向上していこうとする姿勢に感動した。特に理科は、教科書に沿った授業から視野を広げて発展的な授業まで様々なスタイルで行うことができる。自分自身の経験や知識は授業を楽しく面白くする要素に直結しているので、学ぶ機会を掴み取り様々なことに挑戦することが大切であると感じた。今後は、些細なことでも授業のタネになるかもしれないので、画像や動画で記録し将来に活かしていきたい。

# 教育実習報告書

大西 芽衣  
(化学生命工学科4年)

長いものだと思っていた教育実習も、終えてみるとあっという間だった。初めは教師という職業に関して、大変でしんどいイメージをもっていた。もちろん実習を通して教員の方々の業務の多さや、生徒対応、日々の授業準備など近くで見れば見るほど仕事量の多さに驚いた。同じように過ごしてみることで、少しではあるが教員の仕事や大変さを感じることができた。しかし、教員という職業は大変なこともあるが、それと同時にやりがいや楽しさなど魅力に溢れていることにこの実習で気が付くことができた。

初めは生徒との会話の入り口や、どう話すことで心を開いてくれるのか悩んでいた。教員の方々は生徒にいつも寄り添い、また生徒も楽しそうに教員の方と話している姿を見て信頼されているのだと感じた。私はありのままの自分で積極的に声をかけ、日々の生活の話を生徒から聞くことで、実習日数が経過するにつれ、生徒から「先生！」と話しかけてくれるようになった。生徒からの一言や生徒と関わる時間がこんなにも嬉しいものだということに実習を経たからこそ知ることができた。また、観察実習では教員それぞれに良さがある授業を拝見することができ、いいところを活かせるような授業を考えることも楽しく感じられた。生徒がわかりやすく、先生の授業だから受けたいと思ってくれる授業作りを目指して頑張ってきた。生徒主体の授業にしたいと思い、発言する機会や生徒が活動する時間を多く作れるような授業作成を行った。生物は暗記が多いため、退屈させない工夫としてカードを使った。ペアワークをさせることで興味をもたせると同時に、覚えようという生徒の積極性を実らせるようにした。実際に授業を行うと生徒の反応が良く、楽しそうに活動しながらも生物の知識を覚えてくれていた。その他の授業でも生徒の発言する機会を作るために話し合いの時間を多く作れるように工夫した。しかし、実際に授業を行うと上手くいく所と改善が必要になってくる所が顕著に現れた。生徒の書くスピードが思ったより遅かったり、発問の内容が難しかったりと、生徒相手に授業を行って初めて気が付くことばかりだった。指導教諭の方から何度もご指導して頂いたことで、回を重ねるごとにいい授業になったと言ってもらえるようになった。早口になってしまうことや、考えさせる時間が少ないなど、何度授業を行っても難しいことは多く、日々努力し、生徒と向き合っていくことで改善していくことが大事だと分かった。私にとっては拙い授業であっても生徒にとっては教師であることを忘れずに全てにおいて全力で頑張った。そのお陰か、生徒から分かりやすかった、先生の授業をもっと受けたいと言ってもらえた。その言葉をかけられた時、しんどかった準備も苦労も意味があったのだと感じ、教員の方々はこの幸せをやりがいとして励んでおられるのかと思った。また、教員という立場になって初めて、先生方の苦労や生徒に対する思いを知ることができ、今までお世話になった先生方へ改めて感謝の気持ちで一杯になった実習であった。

## 憧れる教師の姿

相原 未来  
(建築学科4年)

はじめて私が「教師になりたい」と宣言した母校に2週間、教育実習をさせていただきました。不安や緊張に押しつぶされそうだったのも一瞬でそんな場合じゃなくなりました。大学の授業では勉強できないこと、高校生のときに感じなかった教師の一面、現場ではそれがいっきに伝わってくる光景があり圧倒され、1分でも時間を無駄にするなんて“もったいない”という姿勢で学ばせていただきました。そのくらい貴重な2週間でした。

私は建築2年生のクラス、その中でも構造設計という教科を担当しました。この授業は建築設計における図式解法や算式解法が中心で、計算の手順を学ばせるものでした。図や線などを多く使いますが、生徒と一緒に確認しながら計算を進ませるために板書を基本とした授業に計画しました。板書は丁寧に見やすく心がけることが出来ましたが書く量が多い分、生徒への説明との区切りが曖昧になり“しっかり生徒の方を向いて話す”ことが難しかったです。教師にとって目線は、何を勉強しているかを生徒に伝えるためにも、また生徒が理解できているか確認するためにも授業における重要なコミュニケーションになっていることが良くわかりました。

教育実習において得たもの、それは職業観でした。確かに私は教師になりたいという信念を確実に持ちながら今まで勉強してきましたが、この教育実習で刺激をもらいそれがさらに具体的かつ現実的に見据えることができました。職業としての教師のリアルな現状とは生徒との間だけに生まれるのではなく教師同士や保護者、自分の心との間でも大切な課題であることを考えることができました。長先生の言葉である「今日教えたことが身になって明日はそうはいかない、なぜなら生徒も教師も気持ちやモチベーションが日々違うから。人が人を育てる仕事なんだから」という教師の正解のない面白さまたそれが難しくもあることを感じました。

教師としての使命はそれぞれ感じる部分が違うと思います。生徒を想った授業それはもちろんですが私は生徒から見えてない教師の姿にその使命を感じました。生徒では中々触れることの出来ない職員室の世界、昨日のテレビの話でもしていると思っていた高校生の私のイメージは壊され「この生徒は」「あの生徒の気持ちは」「その為には」と教師同士で生徒についての相談が飛び交い、全ての教師が生徒のことで頭がいっぱいでした。私はその空間に感動し、そんな生徒から見えてない教師の姿に憧れを強く抱きました。

私は本当に素晴らしい経験をさせてもらいました。「絶対に教師になる」と毎日強く想いました。その為にアサーション能力の改善や自分が教師になったときのこだわりなどを勉強していき、また生徒に「先生」と呼ばれる未来を目標に日々努力していこうとおもいます。